

診療連携協議会のがん登録部会などと連携をとって事業を進めやすいこと、県立がんセンター内の院内がん登録の仕組みや方法がわかり、地域がん登録の問い合わせに役立つことがあります。一方で、県の担当者の異動があり継続して登録業務に従事することが難しいというデメリットもあります。今後の課題として、後継者を育成するために引き継ぐ体制を整備していかなければなりません。



図2. 栃木県地域がん登録のスタッフ

地域がん登録室のスペースも今後増える登録票の管理を考えて確保し、過去のデータ保存についても検討していく予定です。

内容面としては、栃木県のがん罹患率や生存率を求めるにあたり、データをもれなく正しい登録票として集める必要があります。今まで以上に多くの医療機関からできるだけルールに沿った登録票を提出くださるよう働きかけ、ご理解をいただいた上で協力してもらえるよう努力していけたらと思っています。

さらに、他県の医療機関を受診する場合の登録についても検討して行きたいと考えています。

栃木県がん対策推進計画の個別目標にもある DCO の目標に向かって遡り調査の実施も検討しています。ひとつひとつが初めての試みですので困難が多く不安ですが、これらの苦労が自分たちの一歩として実感できると考えて前進して行きたいと思っています。

これからもよりよい地域がん登録に近づくよう、地域がん登録全国協議会、国立がんセンター地域がん登録室や他県の地域がん登録室のお力をお借りすると思いますが、情報交換・勉強しながらがんばって行きたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

第 32 回国際がん登録学会年次総会日本開催の進捗状況と 2008 年第 30 回国際がん登録学会年次総会（オーストラリア）の紹介

丸亀知美 宍戸茉莉

IACR2010 組織委員会 日本事務局

1. 第 32 回国際がん登録学会準備の進捗状況

2007 年 9 月にスロヴェニアにて開催された IACR Annual Meeting（第 29 回国際がん登録学会年次総会）におきまして、2010 年の国際がん登録学会年次総会の日本開催が決定いたしました。日本の地域がん登録制度は、登録の質、完全性等において、まだまだ向上の余地がありますが、この学術総会を日本で開催することにより、世界と肩を並べる地域がん登録制度に発展させる一つの契機となるように、現在準備活動を始めております。

第 32 回国際がん登録学会年次総会の大会長は、国立がんセンター総長の廣橋説雄先生が務めてくださることになりました。さらに本年 4 月には、大会長の委嘱により、祖父江友孝（国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部）を委員長として開催に向けての中心組織である組織委員会を立ち上げました。神奈川県立がんセンター岡本直幸先生、大阪府立成人病センター大島明先生、津熊秀明先生、財団法人放射線影響研究所（長崎）早田みどり先生、愛知県立がんセンター田中英夫先生、国立がんセンター味木和喜子、松田智大、丸亀知美が組織委員となり準備を開始しています。また、大会の事務局は、国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部内に設置されました。現在までに組織委員会を 2 回開催し、専門委員会（プログラム委員会、募金委員会、会場・

財務委員会、広報委員会)の結成、学術総会開催地と会場、開催時期、会議費用と募金活動計画、スケジュール計画などが話し合われました。

まず開催場所についてですが、都内から電車で30分程度、成田空港からも電車で90分程度の場所に位置し、交通の便が非常に良く、観光都市として飲食・宿泊施設が充実している、また地域がん登録を実施している県で、地域がん登録全国協議会理事長である岡本直幸先生の所属している神奈川県立がんセンターと同じ県内である点などを考慮した結果、横浜を開催場所とすることに決定いたしました。横浜は海に近いという事もあり景色の良い場所が多く、江戸時代末期に日本が開国するきっかけとなる日米和親条約の締結の地としても有名であり、様々な歴史的建造物の数多く残る土地です。多くの外国人観光客が訪れる土地ですので、国内はもとより海外からの研究者の方々にとっても、非常に魅力的な場所ではないでしょうか。

開催会場に関しては、予算や予約のスケジュール、会場へのアクセスや施設・備品などの条件をもとに組織委員会で話し合い、横浜市の外郭団体である横浜コンベンションビューローのアドバイスを受け、赤レンガ倉庫1号館もしくは横浜開港記念会館の2候補に絞りました。両会場とも予約開始が2年前からという事なので2008年10月になりましたら予約申請を開始する予定です。なお、開催時期は、2010年10月～11月の中の連続した3日間の予定です。

2. 第30回国際がん登録学会年次総会（オーストラリア）の紹介

今年11月にオーストラリアのシドニーで開催される第30回国際がん登録学会年次総会では、世界で活躍している多くのがん登録関係の方に2010年の第32回国際がん登録学会年次総会に来ていただく様、パンフレットを作成・配布し、日本開催をアピールする予定です。これから開催に向けてまだまだたくさんの準備必要ですが、地域がん登録全国協議会員皆様にもご支援、ご協力を賜ります様お願いいたします。

最後に、今年11月18日から20日までオーストラ

リアのシドニーで開催される第30回国際がん登録学会年次総会のご紹介をしたいと思います。今回は、Clinical Oncological Society of Australia (COSA) や、Australian and New Zealand Gastro-Oesophageal Surgery Association (ANZGOSA) の総会との共催で、第30回国際がん登録学会年次総会が開催されます。上部消化管がん、皮膚がん、黒色腫、検診と早期発見、トレンド解析と将来予測等の議論が予定されています。また、“information in, information out”をテーマとし、分子腫瘍情報のデータリンケージに関する最新情報から患者の方々とのコミュニケーションに至るまで、幅広い議論が予定されています。特に今回はポスターにも重点を置き、日ごとに“Best of the day”が発表されその中から最後に“Best of the best”が選ばれるようです。また、毎年恒例となっている総会前の研修コースでは、レコードリンケージの方法、記述疫学に関する講義が予定されています。今年は、11月15日から17日まで3日間で、いくつかの研修プログラムが準備されている様ですので、ご興味がある方は受講されてはどうでしょうか。この学会は、各国のがん登録関係研究者の発表を聞く機会になり、また我が国のがん登録の現状やがん対策関連の研究を諸外国に向け発表する大きな機会にもなるのではないのでしょうか。海外で開催されるこのような大きな学術総会から、多くの情報とアイデアを得ることは日本のがん対策やがん対策評価方法の一つであるがん登録の更なる発展にも寄与し、また第32回国際がん登録学会年次総会の日本開催にあたってのヒントを得る場にもなるに違いないでしょう。

(プログラム等が掲載されているウェブサイト:
<http://www.iacr.com.fr/>)